



株主のみなさまへ／長期構想 SIC27	1
業績ハイライト	3
事業別活動報告	4
グループトピックス	8
CSR	9
コミュニケーション広場	10
連結財務諸表の要旨	11
会社情報	12
株式情報	13

株主のみなさまへ

生活文化創造企業 東洋インキグループ

“For a Vibrant World”

100年レンジでの持続的成長が
可能な企業体質に変革し、
すべての生活者・生命・地球環境が
いきいきと共生する世界の実現に
貢献する企業グループを目指します



株主のみなさまにおかれましては、平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

東洋インキグループにとって 2018 年度は、すべての連結対象子会社の決算期間を1月から12月に統一した最初の年度であるとともに、新しい中期経営計画“SIC-I”のスタートの年度となりました。SIC-Iをさらなる 100 年レンジでの持続的成長のための礎をつくり上げる期間と位置づけ、当社グループは成長に向けた既存事業の変革や新事業への挑戦、またそのような変革や挑戦を支えるモノづくりの革新や経営基盤の刷新のための施策を推進してまいります。

このような当社グループにとっては新しい挑戦への始まりである 2018 年度ですが、世界経済の状況は、米国では個人消費に支えられて回復が続きましたうえ、中国を始めとするアジア諸国でもスピードは鈍りながらも成長が継続しております。しかし、貿易摩擦や地域紛争などの政治的ナリスクに伴う景気の下振れ懸念は深まってきており、依然として先行き不透明感が広がっております。また我が国でも、景気は回復基調にありますものの、個人消費は未だに力強さを欠いております。

このような環境のなか、当企業グループは「マーケットの潜在ニーズを先取りした迅速な製品開発、価値

■長期構想

SIC27

Scientific Innovation Chain 2027

革新的な発想を科学的に実行し、それぞれの活動の連鎖によって、持続的に成長できる企業体質へと変革してまいります。

SIC-I
挑戦を
繰り返す
2018-2020

SIC-II
新しい成果を
積み重ねる
2021-2023

SIC-III
持続可能な
企業体質を
創り上げる
2024-2026

中期経営計画「SIC-I」基本方針

さらなる100年レンジでの持続的成長の礎を創り上げる期間と位置づけ、変革のための施策を立て続けに打つ

提供による事業拡大の推進」、「処方や生産プロセス、素材などモノづくりの全面的な見直しによる利益の確保・増大の実現」、「持続的成長に向けた経営資源・スタッフ機能の構造改革の実行」を年度の方針として掲げ、各事業を推進してまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は増収となりましたが、原材料価格の急騰などにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益はそれぞれ減益となりました。

中期経営計画「SIC-I」は、2027年を見据えた長期構想の第一段階にあたります。事業環境の変化に伴いSIC-Iのスタートは非常に厳しい結果となりました

が、私たちはこの長期構想に近づくことを目標に、全グループ社員が粘り強く変革に挑み続けてまいります。そして、これらの新しい成果を積み重ね、持続的成長のための強固な事業基盤や経営基盤の構築に邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年8月

代表取締役社長 北川克己

業績ハイライト

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

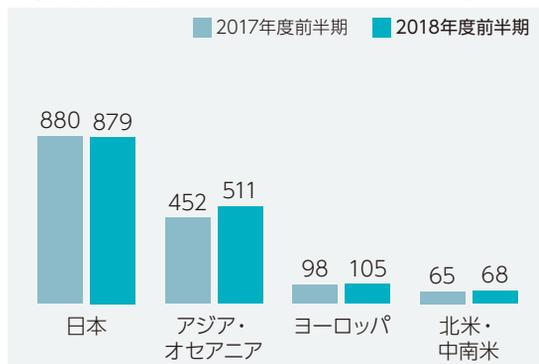
売上高推移

単位：億円



所在地別売上高

単位：億円



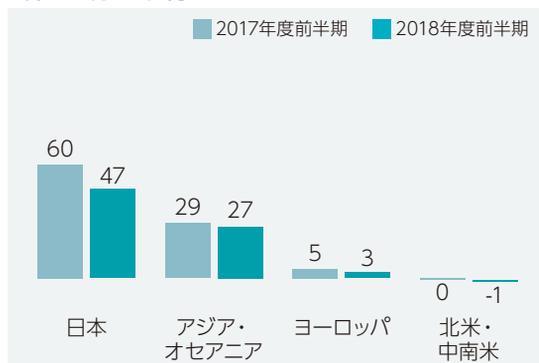
営業利益推移

単位：億円



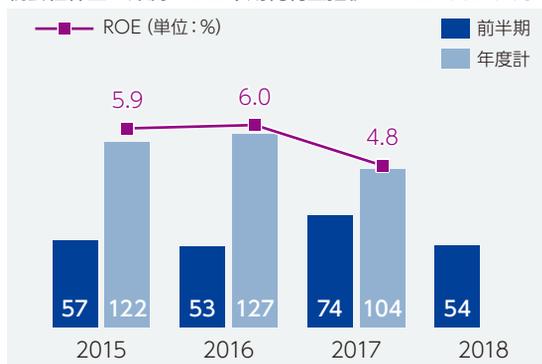
所在地別営業利益

単位：億円



親会社株主に帰属する四半期純利益推移・ROE

単位：億円



当社は2017年6月29日開催の定時株主総会において、毎年4月1日から翌年3月31日としていた決算期を、毎年1月1日から12月31日までに変更することを決定致しました。その為、2017年度は決算期変更の影響により、対象期間が国内は4～12月の9か月間、海外は1～12月の12か月間となっています。

色材・機能材関連事業

色材のリーディングカンパニーである当社グループにとって、有機顔料の合成技術は原点の一つ。ナノレベルの分散技術は、液晶ディスプレイ用材料やレジストインキ、カーボンナノチューブなどにも展開されています。

中核事業会社：トヨーカラー株式会社

◇主な製品 有機顔料、加工顔料、プラスチック用着色剤、カラーフィルター用材料など



■ 当第2四半期までの概況

高機能顔料や液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は、国内では顧客の生産ラインの閉鎖等もあり伸び悩みましたものの、中国や台湾、韓国では、高品位の大型テレビ需要に牽引され堅調に推移しました。しかし、市場変化に伴う液晶パネルの価格競争激化の中で、部材へのコストダウン要請が一層厳しくなり、利益は圧迫されました。

汎用顔料は、国内ではグラビアインキ用や自動車用が堅調に推移しましたうえ、中国での拡販も進みました。一方、環境規制に伴う供給不足などによる原材料価格の急騰が、利益を大幅に圧迫するなか、販売価格の改定も進めさせていただいております。

プラスチック用着色剤は、国内では容器用が堅調も、自動車や建材用などが低調に推移しましたが、海外では東南アジアでの事務機器向けが好調なうえ、韓国でのディスプレイ向けの拡販も進みました。

売上高推移
(単位：億円)

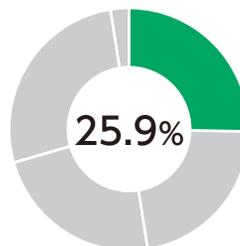


営業利益推移
(単位：億円)

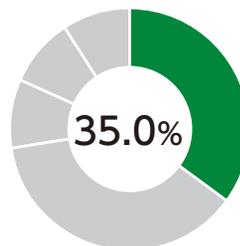


2018年度前半期

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

ポリマー・塗加工関連事業

樹脂（ポリマー）を素に、合成や塗加工の技術を生かし、自動車やエレクトロニクスの分野、太陽電池などのエネルギー分野、メディカル・ヘルスケア分野などで多くの機能性製品が採用されています。

中核事業会社：トーヨーケム株式会社

◇主な製品 缶用塗料、樹脂、接着剤、粘着剤、塗工材料、天然材料など



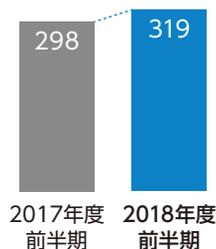
■ 当第2四半期までの概況

塗工材料では、中国や韓国向けのスマートフォン用導電接着シートや、ディスプレイ用粘着フィルムが好調に推移しました。

接着剤は、国内では食品や飲料などの包装用が堅調に推移しましたうえ、リチウムイオン電池用が伸長しました。また海外では、ベトナムを始めとする東南アジアやインドなどでの拡販が進みました。一方、原油価格上昇などに伴う原材料価格の急騰により、利益が圧迫されており、販売価格の改定も進めさせていただいております。また粘着剤も、韓国や台湾などでのディスプレイ用の拡販が進みましたものの、国内で主力のラベル用が前半伸び悩みましたうえ、原材料価格の急騰により利益も圧迫されました。

缶用塗料（フィニッシュ）は、欧米での環境対応製品の拡販が進みましたものの、国内ではコーヒー缶用の低調が続きましたうえ、東南アジアでも伸び悩みました。

売上高推移
(単位：億円)

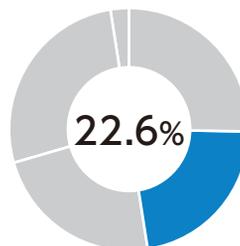


営業利益推移
(単位：億円)

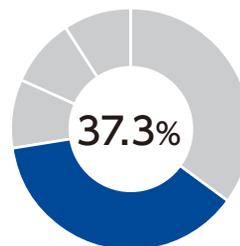


2018年度前半期

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

パッケージ関連事業

パッケージの製造工程に多様な高機能製品を提供。安心・安全が求められる食品包装の分野では、インキや接着剤の水性化、無溶剤化などを進め、また、サステナブルな社会をめざし、バイオマス製品の開発も行っています。

中核事業会社：東洋インキ株式会社

◇主な製品 グラビアインキ、フレキシオンキ、
グラビアシリンダー製版など



■ 当第2四半期までの概況

国内のグラビアインキは、出版用の需要減少が続きましたが、主力の包装用がプライベートブランドやコンビニエンスストア向けを中心に堅調に推移しましたうえ、建装材用も好調に推移、溶剤販売も伸長しました。しかし、原油価格上昇などに伴う原材料価格の急騰が利益を圧迫、自助努力では吸収しきれないなか、販売価格の改定も進めさせていただいております。

海外でも、東南アジアや中国、韓国、トルコなどでの環境対応製品の拡販が進みましたが、原材料価格の上昇により利益は圧迫されました。

また、グラビアのシリンダー製版事業は、包装用が伸び悩みましたものの、エレクトロニクス関連の精密製版の拡販が進みました。

売上高推移
(単位：億円)

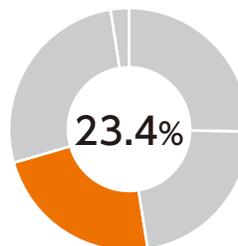


営業利益推移
(単位：億円)

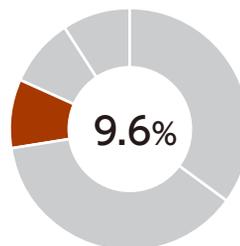


2018年度前半期

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

印刷・情報関連事業

当社グループの原点であり、重要な基盤事業の一つ。顔料や樹脂から最終製品までを一貫生産できる強みを生かし、環境調和型や高性能など多様な製品を開発。印刷工程での標準化サポートなどのソリューションも提供しています。

中核事業会社：東洋インキ株式会社

◇主な製品 オフセットインキ、金属インキ、印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、印刷材料、インクジェット材料など

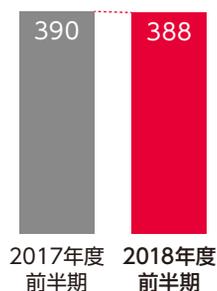


■ 当第2四半期までの概況

デジタル化に伴う情報系印刷市場の縮小傾向のなか、国内では製品別にビジネス規模の最適化やコストダウンを進める一方、海外ではグローバルな拠点拡充による売上拡大を図り、インドやトルコなどでの拡販が進みました。また、最先端技術を活用した高感度UVインキや、オンデマンド印刷向けインクジェット用インキなどの開発や拡販、事業間の連携強化によるビジネス拡大も図ってまいりました。

しかし、国内におけるチラシなどの商業印刷や新聞、雑誌などの既存のオフセットインキや、関連材料の需要は予想以上に低調に推移しましたうえ、原材料価格の上昇により利益も圧迫されました。

売上高推移
(単位：億円)

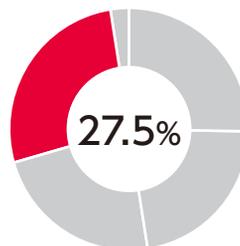


営業利益推移
(単位：億円)

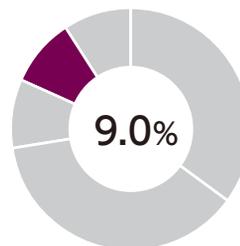


2018年度前半期

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

トーヨーカラー × NOSIGNER カラーブランディングプロジェクト始動



当社の連結子会社であるトーヨーカラー株式会社（以下、トーヨーカラー）は、NOSIGNERとともに「プレミアムカラーブランディングプロジェクト」をスタートさせました。消費者向けにブランディングすることで、お客様と共に新たな価値の創造を目指しております。その第一弾として、通常の黒よりも遥かに黒い「ZENBLACK™」を、2018年5月30日に東京国際フォーラムにて開催した「東洋インキグループプライベートショー TIG EXPO 2018」に出展致しました。

2018 深圳 Design Week 展示会場

ZENBLACK™ 公式Webサイト
<http://zenblack.jp/>

ZENBLACK™とは

地球上で最も黒い物質のひとつ “ZENBLACK™”

東洋インキグループが長年培ってきたトーヨーカラーのナノテクノロジーによって、通常の黒よりも遥かに黒い物質を実現致しました。古来より人々を魅了し続けてきた黒という深遠な色は、光をどれだけ無にできるかの光学性のことと言い換えることができます。無という精神性の中には、アジアの感性が詰まっています。この深遠で純粋な黒を、「禪」の精神と美意識になぞらえて、ZENBLACK™と名付けました。2018年4月には中国・深圳で開催されたデザインウィークに出展し、大きな反響がありました。TIG EXPO 2018では、通常の黒より黒い漆器をZENBLACK™のコンセプトとともに日本で初めて展示致しました。

NOSIGNERについて

NOSIGNER（ノサインナー）は、日本のデザイン事務所であり、希望ある未来への社会変化を加速させるためのデザイン活動を行っています。NOSIGNERには、形の背景にある目に見えないもの（NO-SIGN）をつくる職業という意味があります。デザイナーは美しい形を生み出す人（DE-SIGNER）であると同時に、目に見えない新たな関係を発見する人（NO-SIGNER）であるべきだという想いが込められています。

NOSIGNERの詳細はウェブサイトをご覧ください
<http://nosigner.com>（和文・英文）

※ TOYOCOLOR、TOYOCOLORロゴおよびZENBLACKは、東洋インキSCホールディングス株式会社の商標もしくは登録商標です。

東洋インキグループの
CSRの5つの重要課題を
ご紹介します

東洋インキグループ
オリジナルキャラクター
リオちゃん



東洋インキグループ長期構想SIC27の実現のためには、グループの企業価値と社会の持続可能性の向上を両立させるための重要課題（経済、社会、環境に与える著しい影響に対応する課題）の策定が必要であると考え、2016年度から重要課題の策定に向けた取り組みを進め、5つの重要課題とその目指す姿などを明確に致しました。

今後、中期経営計画SIC-Iと連動しながら、CSR活動が生み出す提供価値を経営計画のPDCAサイクルの指標にすることで、CSR活動の組織的かつ計画的な推進と経営戦略へのさらなる統合を図ってまいります。また、事業活動と関わりが深いSDGs*の12の目標については、CSRの重要課題と関連付けて取り組んでまいります。

重要課題	バウンダリー (影響範囲)	SDGs*の関連項目
重要課題① お客様の期待を超える価値を提供し、 社会に貢献する	お客様、社会	3 すべての人に健康と福祉を 7 エネルギーをみんなに かつクリーンに 9 産業と技術革新の 芽生えにつなぐ 12 つくる責任 かつ消費責任
重要課題② 革新的技術を通じて環境と共生する	環境	3 すべての人に健康と福祉を 6 安全な水とトイレ を世界中に 7 エネルギーをみんなに かつクリーンに 12 つくる責任 かつ消費責任 13 気候変動に 適応する 15 陸の豊かさも 守ろう
重要課題③ サプライチェーンと共存共栄を図り、 ステークホルダーの信頼に応える	サプライチェーン	12 つくる責任 かつ消費責任 16 平和と公正を すべての人に
重要課題④ 社員を大切に、 幸せや働きがいを目指す	社員	4 質の高い雇用を みんなに 5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も
重要課題⑤ 信頼を支える堅実な企業基盤を築く	間接的に あらゆる ステークホルダー	10 人や国の不平等 をなくそう 16 平和と公正を すべての人に

※SDGs: 持続可能な開発目標とは
 2015年9月の国連サミットで採択された2030年を年限とする17の国際目標です。政府のみならず、企業や市民社会など、地球上のすべての人を対象とした共通目標で、「誰一人取り残さない」世界の実現を目指しています。

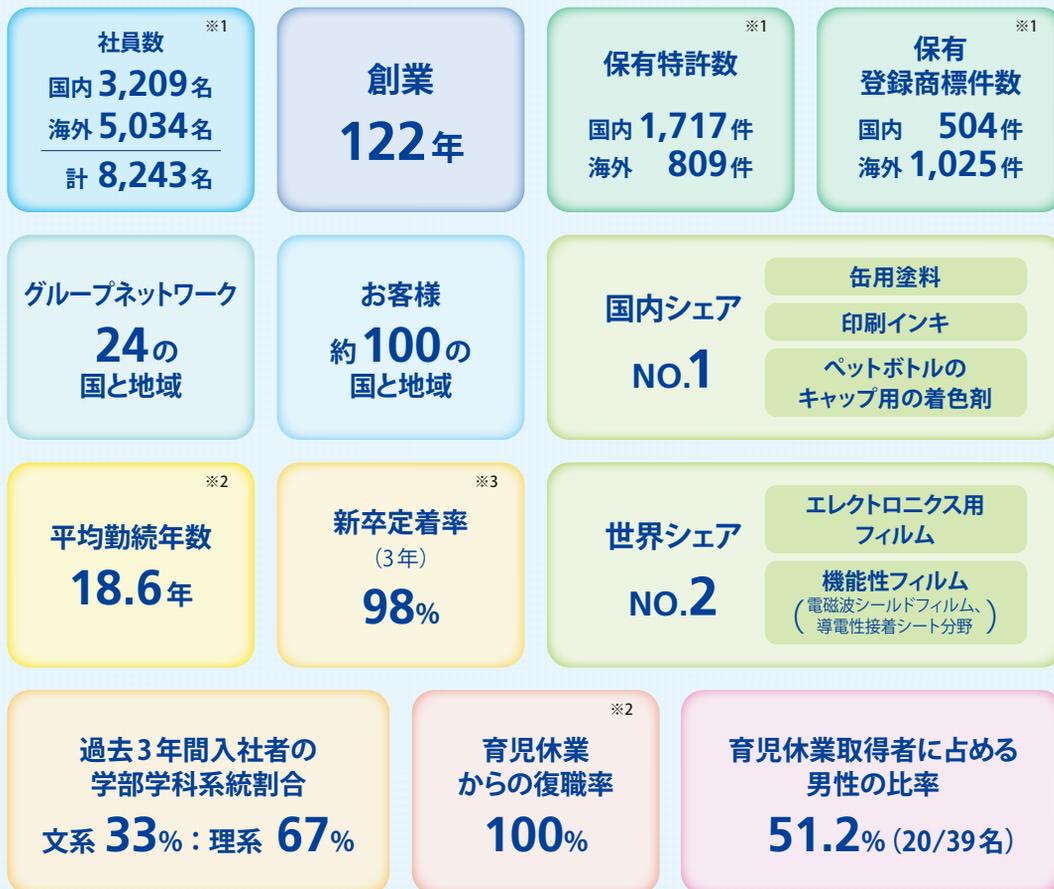
詳細は、当社HPに掲載されている「CSR報告書2018」をご参照下さい ▶▶ <http://schd.toyoinkgroup.com/ja/csr/reports/index.html>

Q もっと積極的に情報発信してほしい。

当社では、株主のみならずと双方向コミュニケーションを目指し、年に1回アンケートを実施しております。ここでは、特に多くの方からいただいたご質問にお答えいたします。

A 当社グループをよりよく知っていただくために、東洋インキグループをわかりやすい数字で発信いたします。

数字でわかる東洋インキグループ



※1 2018年6月末現在

※2 2018年7月1日現在

※3 2015年4月1日入社社員の2018年4月1日在籍状況

連結財務諸表の要旨

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

科目	2017年12月31日現在	2018年6月30日現在
流動資産	1,965	2,006
固定資産	1,832	1,762
資産合計	3,797	3,768
流動負債	933	985
固定負債	553	528
負債合計	1,486	1,512
資本金	317	317
資本剰余金	327	326
利益剰余金	1,389	1,419
自己株式	△50	△50
その他有価証券 評価差額金	193	152
為替換算調整勘定	32	△9
非支配株主持分	69	66
純資産合計	2,311	2,256
負債純資産合計	3,797	3,768

連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

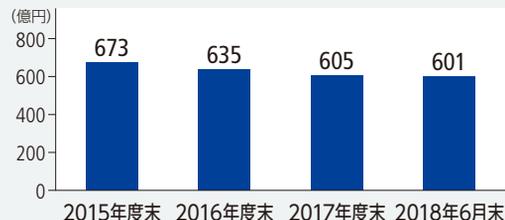
	2017年度前半期	2018年度前半期
売上高	1,356	1,410
売上原価	1,027	1,098
販売費・一般管理費	234	234
営業利益	95	78
営業外収益	11	12
営業外費用	6	14
経常利益	100	75
特別利益	6	9
特別損失	1	2
税金等調整前 四半期純利益	105	81
法人税・住民税 及び事業税	27	30
法人税等調整額	1	△5
非支配株主に帰属 する四半期純利益	2	2
親会社株主に帰属 する四半期純利益	74	54

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

科目	2017年度前半期	2018年度前半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	119	116
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28	△46
財務活動によるキャッシュ・フロー	△82	△22
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△11
現金及び現金同等物の増減額	7	37
現金及び現金同等物の期首残高	441	493
現金及び現金同等物の期末残高	449	530

◎有利子負債の状況



◎1株当たり配当金



●中間配当金：1株につき8円

●中間配当の効力発生日（支払開始日）：2018年9月3日

※2018年度期末以降の1株当たり配当金は、2018年7月1日をもって実施致しました株式会社併合の併合割合を勘案して設定させていただく予定です。

※2018年度期末の1株当たり配当金は45円の予定です。

会社概要

創業	1896年(明治29)1月
設立	1907年(明治40)1月15日
資本金	31,733,496,860円
発行済株式総数	303,108,724株 (2018年7月1日の株式併合後は) (60,621,744株)
社員数	(連結) 8,243名 (単独) 411名

役員 (取締役・監査役)

取締役会長	佐久間國雄
代表取締役社長	北川 克己
専務取締役	山崎 克己
専務取締役	青山 裕也
常務取締役	宮崎 修次
常務取締役	高島 悟
取締役	足立 直樹
取締役	甘利 公人
取締役	木村 恵子
取締役	酒井 邦造
取締役	平川 利昭
取締役	井出 和彦
取締役	濱田 弘之
取締役	中野 和人
常勤監査役	住山 政弘
常勤監査役	大湊 満
常勤監査役	石川 隆
監査役	池上 重輔
監査役	垣谷 英孝

グループ主要営業品目

有機顔料、加工顔料、プラスチック用着色剤、
カラーフィルター用材料、缶用塗料、樹脂、
接着剤、粘着剤、塗工材料、天然材料、
オフセットインキ、金属インキ、
印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、
印刷材料、インクジェット材料、グラビアインキ、
フレキシインキ、グラビアシリンダー製版

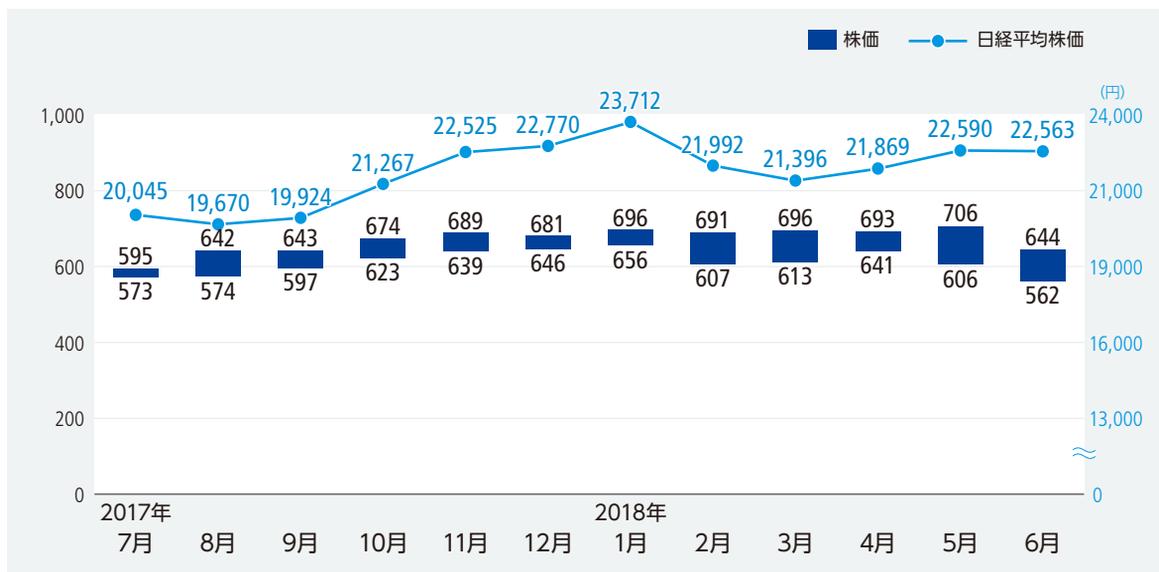
事業拠点

※太字 製造拠点含む

国内拠点所在地	札幌 千歳 仙台 東京(京橋、十条) 千葉 茂原 川口 埼玉 川越 東松山 金沢 長野 新潟 名古屋 掛川 富士 春日井 守山 大阪 寝屋川 京都 西神 尼崎 岡山 広島 高松 福岡 北九州 熊本
海外拠点所在地	アメリカ合衆国 カナダ ブラジル メキシコ フランス ベルギー イギリス ドイツ リトアニア トルコ 中華人民共和国 台湾 大韓民国 シンガポール タイ マレーシア フィリピン インドネシア ベトナム インド アラブ首長国連邦

株式情報

◎株価の推移 (東京証券取引所)



◎売買高の推移 (東京証券取引所)



◆大株主

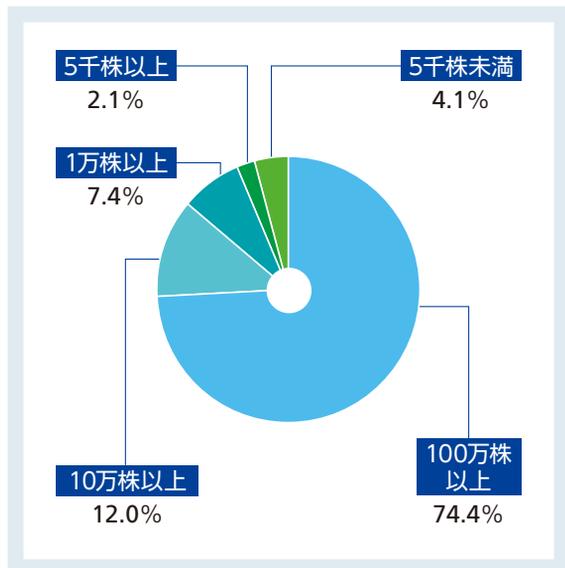
2018年6月30日現在

順位	会社名	持株数(千株)	持株比率
1	凸版印刷株式会社	68,234	22.51%
2	サカティンクス株式会社	11,676	3.85%
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,171	3.69%
4	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,169	3.02%
5	株式会社日本触媒	8,306	2.74%
6	全国共済農業協同組合連合会	7,865	2.59%
7	東洋インキグループ社員持株会	6,546	2.16%
8	株式会社三菱UFJ銀行	5,366	1.77%
9	株式会社みずほ銀行	5,365	1.77%
10	東洋インキ取引先持株会	4,495	1.48%

※自己株式11,184,845株を除く。

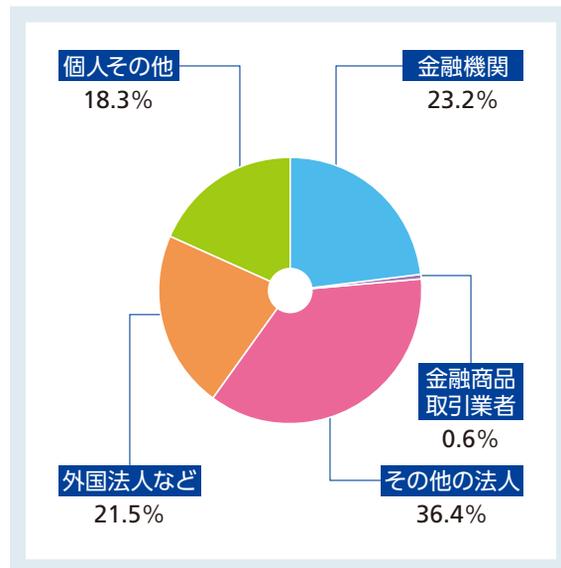
◆所有数別株式数比率

2018年6月30日現在



◆所有者別株式数比率

2018年6月30日現在



株式のご案内

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月下旬

基準日 ●定時株主総会・期末配当：毎年12月31日
●中間配当：毎年6月30日

株主名簿管理人

および

特別口座の

口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

◎住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

東洋インキ SC ホールディングス 株式会社

〒104-8377 東京都中央区京橋二丁目2番1号

この冊子に関するお問い合わせ先 グループ総務部 TEL.03 (3272) 5731

インターネットによるお問い合わせ先 <http://sacd.toyoinkgroup.com>

E-mail master@toyoinkgroup.com



この報告書は、米ぬか油や再生植物油を使用したライスインキで印刷しています。